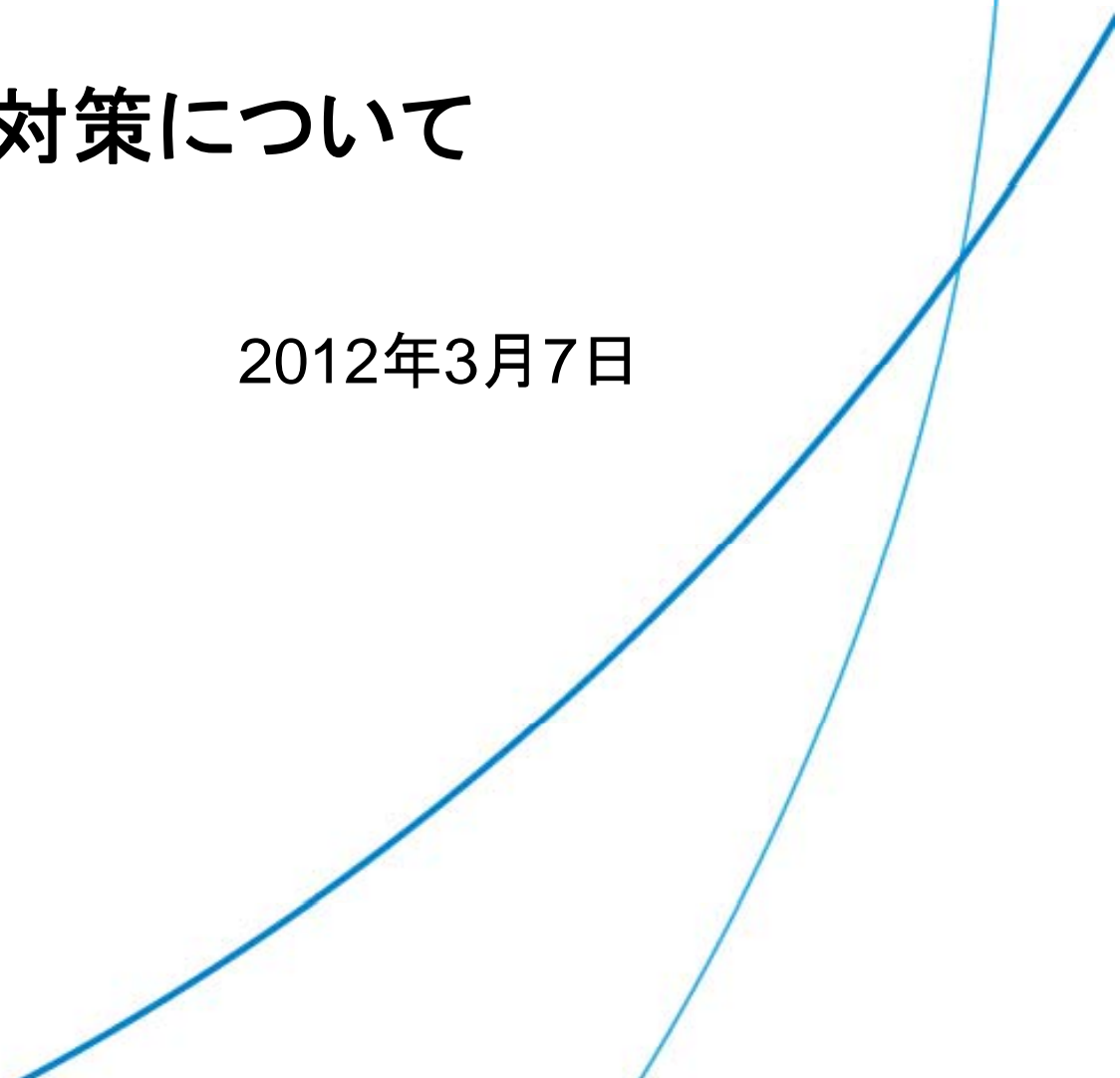




小田急電鉄の環境対策について

2012年3月7日



小田急グループ環境戦略



グループ丸となって、環境負荷に対する規制等の強化やお客さまの環境に対する意識の高まりなど社会の変化に適合していくため、環境面においてグループの方向性を示した「小田急グループ環境戦略」を策定しました。

【環境ビジョン】

小田急グループは、環境に配慮した事業活動に努めるとともに、人に、地球に優しい商品、サービスを通じて、ゆたかなくらしの実現に貢献します

【個別戦略】

戦略1 環境意識に応える商品・サービスの充実

環境配慮商品・サービスを提供することで、お客さまのニーズを充足させる

戦略2 利用しやすい交通ネットワークの提供

環境負荷の低さという強みを活かし、公共交通の利用を促進する

戦略3 自然を楽しめる観光サービスの提供

沿線エリアの自然に気軽に触れ合える機会を提供することで、レジャーの場としての魅力を向上させる

戦略4 事業活動に伴う環境負荷の低減

環境負荷の低減に対する社会の要請に誠実に応え、環境に関わるリスクを低減する

戦略5 沿線エリアの環境保全

地域との協働により沿線エリアに広がる自然を保全し、沿線価値の維持・向上を図る

【環境マーク】

このマークは地球を象徴する色であると同時に、小田急沿線の豊かな自然環境を感じさせる色ともいえる「みどり」と「あお」に着目し、沿線の豊かな自然を1枚の葉っぱに、社会とのふれあいや次代への想いを波紋で表現しています。



【環境マネジメントシステム（EMS）】

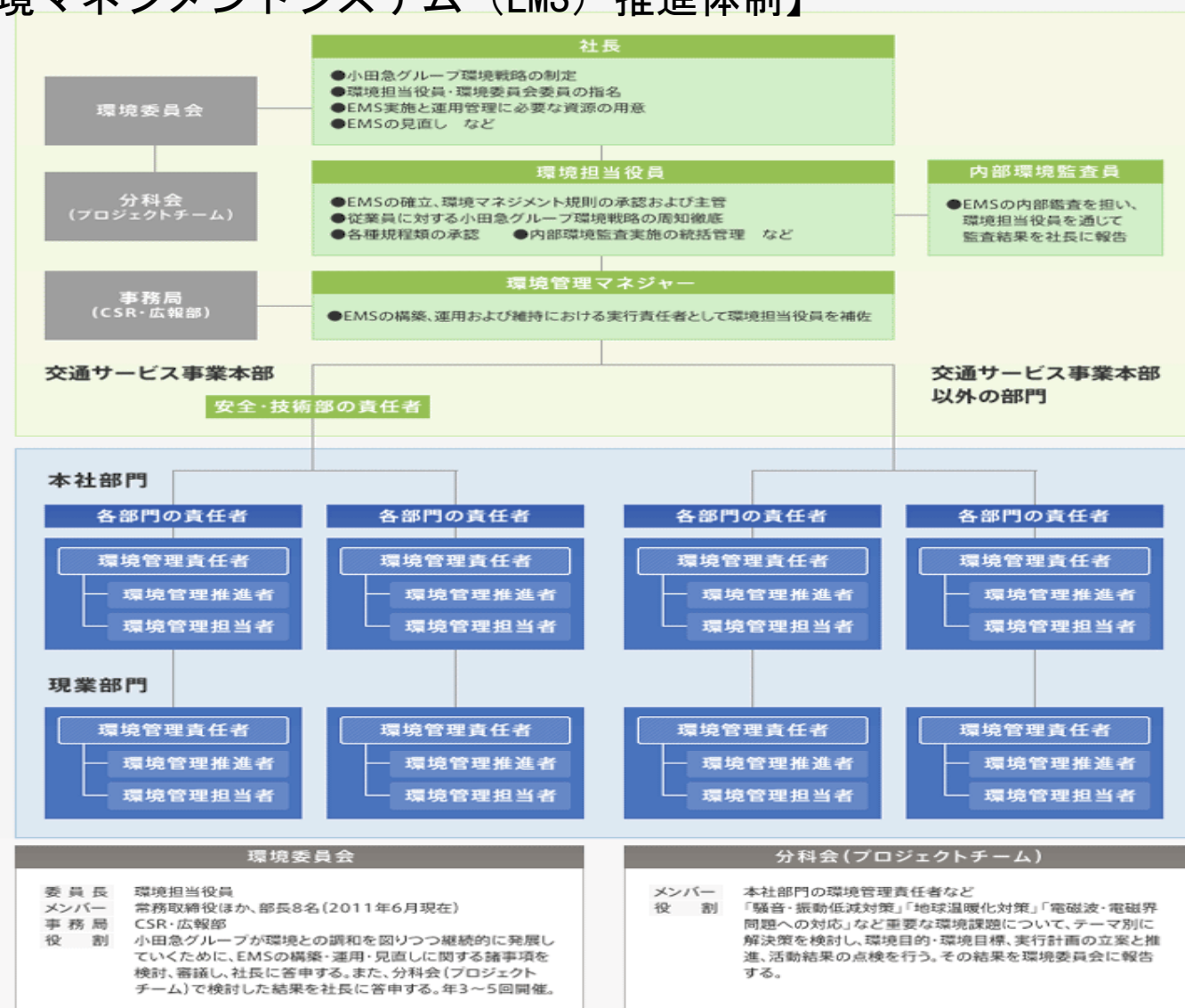
「小田急グループ環境戦略」のもと各部門の環境負荷を分析したうえで、業務特性に応じた環境目的（3カ年ごと）・環境目標（1カ年ごと）を策定し、計画（Plan）－実施（Do）－監視測定（Check）－改善（Action）するというPDCAサイクルを運用し、環境負荷の低減に努めています。

EMSの推進体制としては、「小田急グループ環境戦略」や環境活動に伴う経営資源の準備および配分などを決定する社長を最高責任者とし、環境担当役員から環境管理マネジャー、各部門の責任者へ意思決定を伝達する体制を構築しています。また、環境担当役員を委員長とする「環境委員会」を設置し、EMSの運用状況の検証と評価、見直しや、新しい施策立案について審議を行っています。

小田急グループ環境戦略



【環境マネジメントシステム（EMS）推進体制】



鉄道部門における環境負荷の低減

・省エネルギー車両の導入

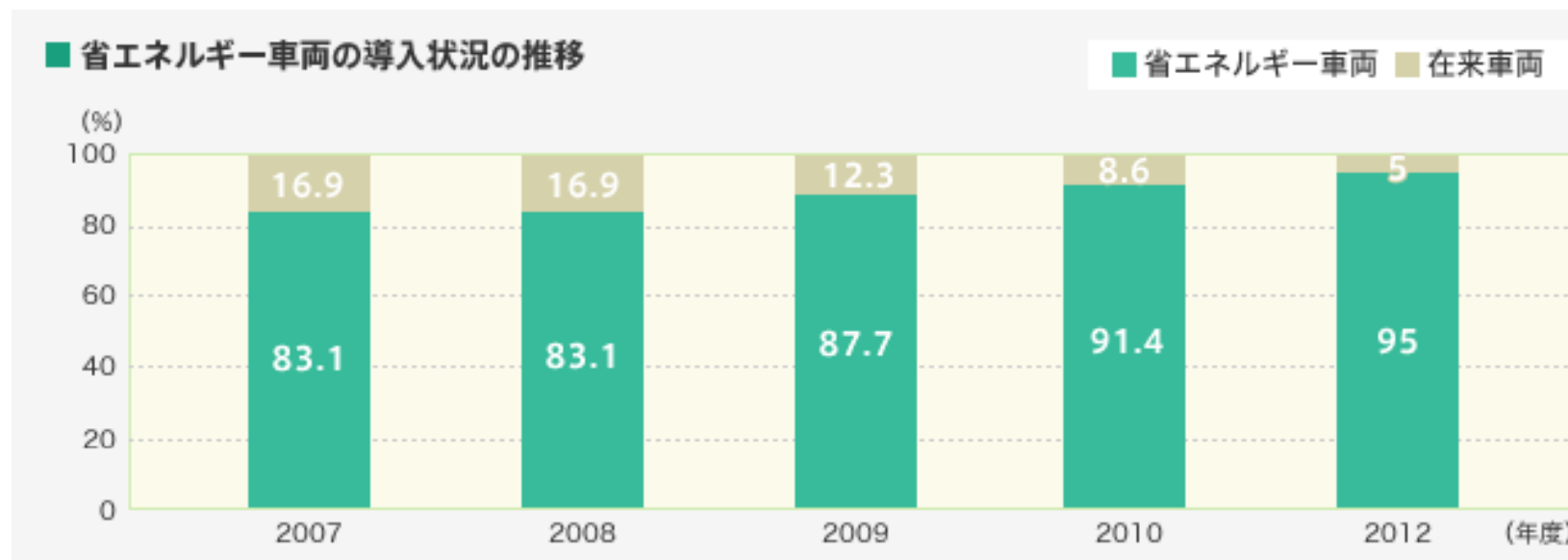
運転用電力量の削減を目指して、VVVFインバータ制御装置や回生ブレーキの導入、車体の軽量化などを施した「省エネルギー車両」の導入に取り組んでいます。新型の4000形車両では、従来の5000形と比較して電力消費量を46.8%削減できます。

※省エネルギー車両の導入率	91.4%
※VVVFインバータ制御装置搭載率	85.9%
※回生ブレーキ導入率	92.4%
※T I O S装置搭載車両	31.8%

(2010年度末)



4000形車両



鉄道部門における環境負荷の低減

- ・ 省エネルギー機器の導入
人感知エスカレーターの設置
変圧器・整流器の高効率化
- ・ 自然エネルギーの活用
太陽光発電システム（7駅）
風力太陽光発電システム（1駅）



人感知エスカレーター



はるひ野駅

鉄道部門における環境負荷の低減

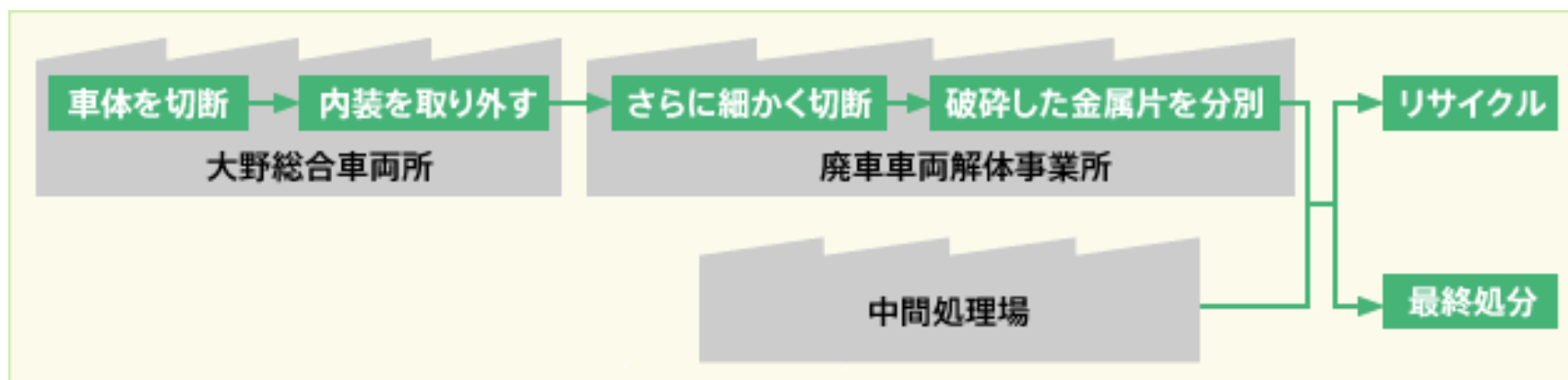
- ・ 自然排気・昼光の利用
吹き抜けを利用した自然換気
テント膜による自然採光を利用



新百合ヶ丘駅

- ・ 上下一括き電の採用
回生失効対策
電圧降下対策

- ・ 車両のリサイクル
車両解体時に発生する廃棄物のうち約98%の金属類をリサイクル



鉄道部門における環境負荷の低減

- ・パーク＆ライド
小田急百貨店と協力しパーク＆ライドを実施（3駅）
- ・その他
カーボンオフセット周遊券
グリーン電力の活用（臨時特急等）
屋上緑化



カーボンオフ
セット証明書

(参考) グループ会社の取り組み	
通勤定期「グリーンエコパス」 (カーボンオフセット)	《神奈川中央交通》
旅行商品「箱根でおしゃべり」 (カーボンオフセット)	《小田急トラベル》
カーボンオフセット付ハイブリッドバス	《小田急バス》
あじさい電車 (グリーン電力)	《箱根登山鉄道》
フードエコロジーセンター (食品リサイクル)	《小田急ビルサービス》

自然との共生

- ・ 小田急沿線自然ふれあい歩道
- ・ クリーンキャンペーン
- ・ 植樹会
- ・ 自然観察会
- ・ 里山保全活動
- ・ 外来生物に対する取り組み



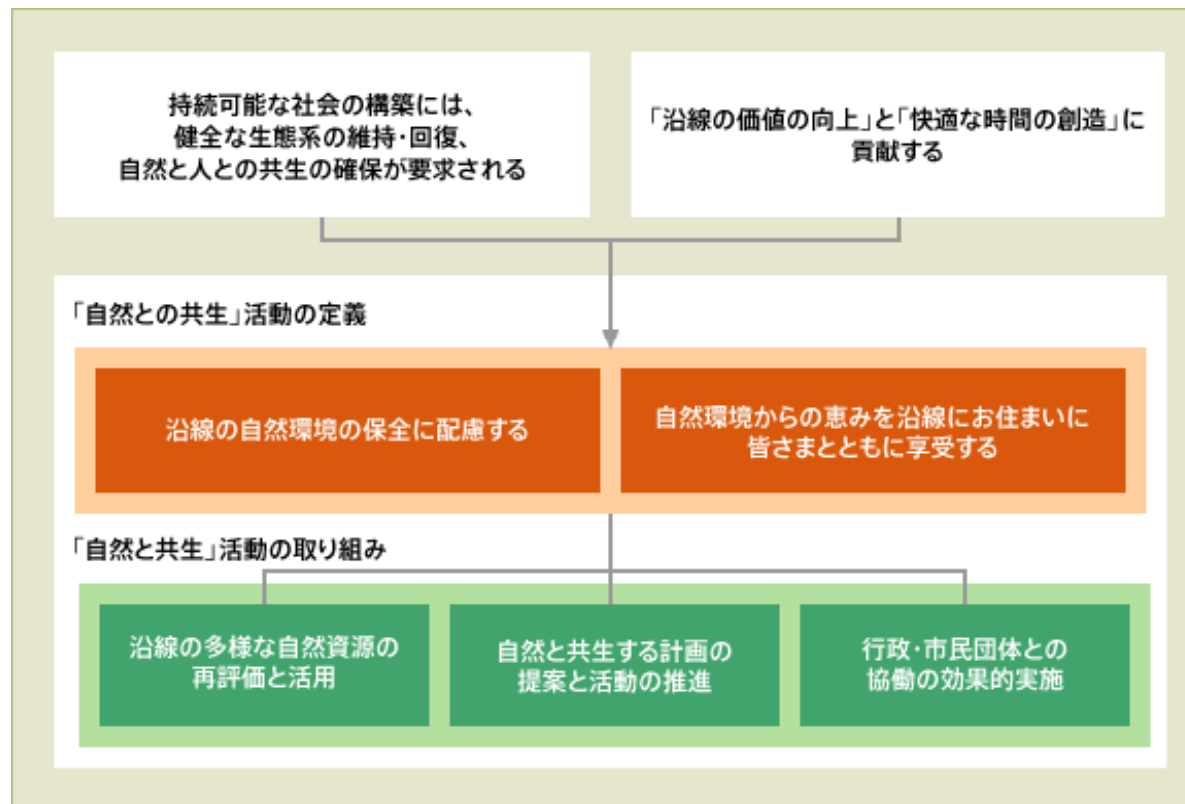
小田急沿線自然
ふれあい歩道



植樹会



里山保全活動



環境関係データ

- ・ エネルギー投入量
3,809,386 G J (対前年▲1.3%)
- ・ 温室効果ガス排出量
147,172 t - CO₂ (対前年▲9.3%)
- ・ 廃棄物発生量
7,174 t (対前年▲0.1%)
内リサイクル量 5,682 t
(リサイクル率79.2%)



今後の計画

代々木上原～梅ヶ丘間地下化3駅（東北沢・下北沢・世田谷代田）では、消費電力量の抑制、世田谷区の環境基本条例への対応の観点から様々な環境対策を検討中である。

【主な検討案】

- ・ 太陽光発電の活用
- ・ 地中熱の活用
- ・ 照明のLED化
- ・ 回生電力エレベーターの設置
- ・ 停止待機型エスカレーターへの設置
- ・ エコ給湯の採用 等



新駅舎における節電対策



シモチカナビ18号等で既報のとおり、新駅舎は自然エネルギーの有効利用等を積極的に取り入れた環境にやさしい施設を目指していますが、今般の電力供給不足を踏まえ、更なる対策の実施が可能であるか否か検討を進めています。

今後、進展がありましたら、シモチカナビで報告させていただきます。



新駅舎における環境負荷低減施策として、駅施設の一部に地中熱を利用した空調設備を設置します。

今回、その熱源を取り入れるシステムをトンネル本体の下に設置しました。